



いいつちをつくりたい!

分散登校をしていた6月、「なぞのなかま」からの手紙が1年2組に届きました。そこには「1ねん2くみのみんなのなかまになりたい」と書いてありました。「だれなんだろう?」「ぼくたちもお手紙を返そう!」と不思議な気持ちとワクワクをもって手紙を読む子どもたち。その翌朝、登校してきたみんなから「僕たちの書いた手紙どうなった?」「また、お手紙来ているかな?」と開口一番に聞こえてきました。どきどきワクワクをもって帰っている子どもたちがいます。教室に着いた子たちから、「あ! あった! 早く読みたい! 開けていいかな?」という声。教室には、封筒に入った手紙が届いていたのです。しかも、開けても開けても封筒が出てきます。みんな、「なぞのなかま」さんに話しかけながら、一つずつ開けていきました。最後に手にしたものは「一粒の種」。手紙には「ふかふかの あたたかい つちが すきなんだ」と書いてありました。

その言葉を、受けたAさんとBさんは学校の周りを自分の足で歩いて、「いいつちさがし」を始めました。2人で見つけたものを地図に書き、そこに「すーぱー いいつち だいさくせん」と書き込みます。そして、「昨日見つけた土のことをみんなに言いたい!」と、2人で書いた地図をみんなに見せながら、自分の思いを語ります。それを聞いていたCさんは、「見てみないとわからないよ! 見に行きたいな!」と声を出します。ほかの子たちも、「うんうん」とうなずき、みんな「いいつちさがし」に出かけることになりました。



触って感触を確かめる

2人の案内で、見つけた土をほってみたりさわってみたり…。「ふかふかだね。いい土だな!」「ちょっと冷たい感じがする。」「お日様に当てたら、もっといいかもしれない」「かたいところもあるから、耕さなきゃいけないね。」「虫がいるよ!」「ミミズだ!」「ミミズがいるってことは、いい土だってことだよね!」それぞれのやり方で土の感触を確かめています。

Aさんは、みんなに「この見つけた土を学級園に運んで混ぜて、『すーぱーいいつち』を作りたいんだ」と提案しました。Dさんはすかさず「賛成! いい土作ろうよ!」と話し、Eさんは「え! どうやって運べばいいんだ??」と思考を始めていました。



みんなで協力して



小さいシャベルと、バケツを手にもって、土づくりを始めました。暑い中、途中で休憩したり、バトンタッチをしたりしながら、始めた初日。でも、困ったなあと感じている子どもたちがいました。Fさんが「小さいシャベルじゃ、全然土が柔らかくならないよ」と困ったことを話します。「大きいシャベルを使える人は、大きいシャベルで穴を掘って、小さいシャベルで柔らかくしていくのがいいと思う。」「それでね、一輪車とバケツとって、役割を決めてやるといいんじゃないかな」と提案がありました。うなずきながら聞いている子たちがいます。友だちのいい考えに納得して、それぞれがみんなのため・たねさんのためと汗びっしょりになって、体全部でがんばる姿がありました。

